

展覧会の審査について

展覧会の審査は、どんな基準によってなされるかは、既にご存じの方もおいですが、初めて出陳される方のためにご説明致します。ご一読の上ご理解戴きたいと存じます。

それぞれの犬種にはスタンダードと呼ばれる犬体標準書が存在します。全犬種団体と単犬種団体の標準書を比較した場合、単犬種団体の標準書の方が多項目にわたって記載されております。内容としては、総てにおいて健全であることが基本とされ、犬種の用途種別により健全度の比重がわずかに異なります。日本スピツは愛玩を兼ねた家庭警備犬とされていますが、国際的には多用途犬です。

これら標準書に基づいて審査員は減点法により採点いたしますが、犬に関する知識が豊富であっても審査犬種には精通しないという審査員の場合、当該犬種の長所部分の理解が出来ません。その反面、永年1犬種のみを飼育し、その犬種は知り尽くしても、犬全般の知識が希薄な審査員の場合、標準書の底流にある健全度を正しく理解しないまま、長所主体の採点をする事になりがちです。

標準書は文字によって書かれています。結果としては、審査員の描いているスタンダードで審査されます。理想とする採点審査は、審査個体の持っている欠点と、備えている長所を的確に把握することです。評価点数は減点法によって採点されますが、上位犬選出には長所が認められる場合、その加点が1/20の範囲内で認められますので、許容範囲内の減点での評価点数は低くても、優れた部分の加点により、更に上位にランクされることとなります。

では、審査基準となる標準書の根拠なのですが、過去に名犬と云われた犬達は果たして満点だったのでしょうか、この部分をご理解戴かなければなりません。

実在した優秀犬をモデル犬に標準書は作成されたものではありません。その内は総体的に、また部分的に理想を最大限に要求しております。総ての個体は当然理想に届かないなんらかの部分を持ち合わせております。その部分を便宣上欠点と云いますが、通常一般に使われている欠点、即ち『劣っている』とは意味合いが全く異なります。『理想には及ばない部分』であることとご理解下さい。

また、展覧会審査は当日・当時間で採点されます。審査個体のコンディションは、季節・年齢・生理・管理など様々な環境等により異なります。したがって、本日の成績結果はご愛犬を決定付ける評価ではありません。家庭では日本一であり世界一の良きパートナーです。ご愛犬に沢山の友達を見せてあげることが、共通する楽しい思い出となって、時間を経過してもなお色褪せることなく、強い絆となり、より深い信頼関係を築き上げるものと確信いたします。

本日はご出席有り難うございます。本鑑賞展スタッフ一同不馴れな中、より楽しく過ごして頂ける様努力いたしておりますが、思うに任せない部分があるかと存じます。ご寛容のほどお願い申し上げます。

2002.3.31 柴 稔 (NSC会長)

(NSC創立展覧会 配布資料)